

牧師室から(2021.6.6)

スーパー巡りはこの頃の私の楽しみの一つである。昨日杉久保のチェーン店に行った折、道の反対側にある公園にも行った。アイネがいた頃、買い物ついでによくここに来ていた。そこに一つの看板があり、杉久保縄文遺跡の説明があった。最近、北東北・北海道の縄文遺跡が世界文化遺産の勧告を受けるなどあったので、少し注意して読んでみた。そのあたりに環状集落があったらしい。中央広場からは墓穴や貯蔵穴が見つまっている。集落の中央にある広場は公共空間として大事であったであろう。

集落や町の中心に広場があるというので思い浮かべるのは、ギリシャの都市のアゴラ（広場）である。使徒言行録にも、ある者は裁かれるために広場に引き出されたり、またパウロなどはそこで論客と論じ合っていたことが記されている。中世から続くヨーロッパの町には、市が立つ、現在でも市場広場と呼ばれるところが旧市街の中心にある。

かつてのヨーロッパの町には、人々が集まって会議をし、裁きをし、また取引などをしていた名残のある広場が今でもみられる。現在の日本の町ではそのような意味での中心が喪失している。ただ交通の便などによっておおよそ人が集中する地帯が中心とみられることが多いのではないであろうか。

その縄文時代の広場には、墓穴もあったということだから何かしらの宗教儀式もあったかもしれない。また長老のような人もいて、そこで教えたり、裁いたりしていたのかもしれないと想像してみた。ただ文字のなかった先史時代ではそれがどのようなものであったかをはかり知るのが難しい。もちろん土偶や石棒などからはある程度の想像ができるかもしれないが・・・そのようなことを考えつつ、道を渡って駐車場に戻り、スーパーで厚揚げを買って家に帰った。

(鈴木淳一牧師)